

きよらの郷  
南小国町のご紹介

# 基本情報

位置：九州中央部、熊本県東北部の阿蘇郡に所在

標高：430～945m

面積：115.86km<sup>2</sup>（うち85%が森林・原野）

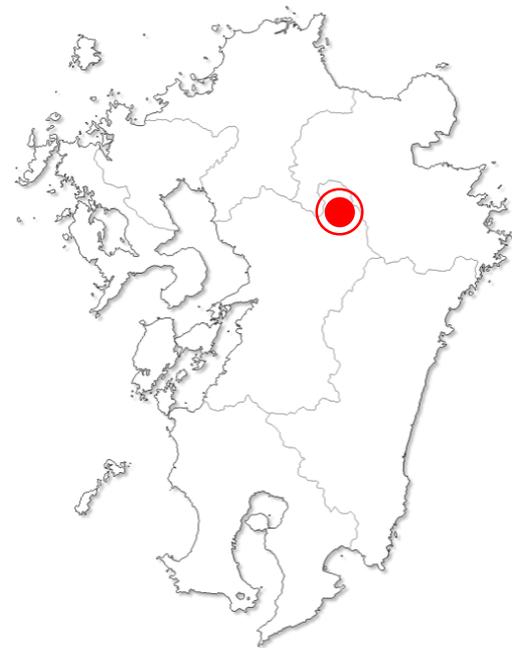
人口：3,848人（うち40.6%、1,563人が65歳以上）  
(2022.2.28現在)

世帯数：1,753世帯（2022.2.28現在）

財政力指数：0.22（令和2年度）

ゆるキャラ：「きよらスキー」

国指定天然記念物  
「金比羅杉」の妖精ラヨ!



# 主な産業 ①観光業

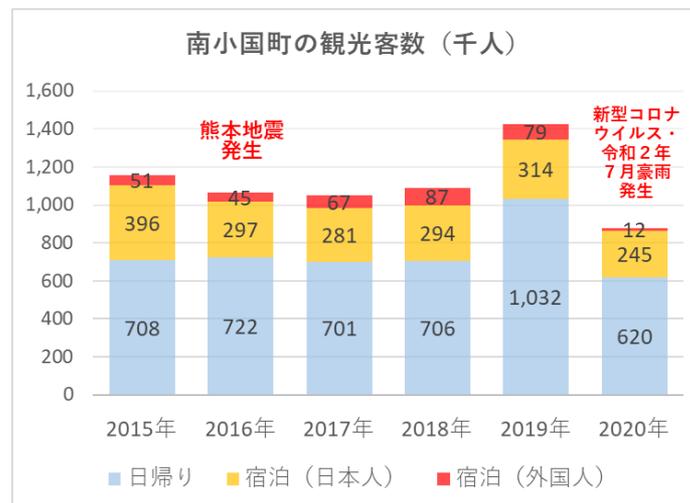
◇本町への観光客数は例年100万人を超え、  
2019年(令和元年)の観光客は142.5万人  
しかし、2020年(令和2年)の観光客は  
87.7万人に減少

新型コロナ等の影響で前年比△54.8万人(△38.5%)

◇全国的にも有名な黒川温泉を含む5つ※の  
温泉地が所在し、旅館業や飲食業がさかん  
※黒川温泉、小田温泉、白川温泉、田の原温泉、満願寺・扇温泉

◇旅館や飲食店等では、あか牛料理やそば、  
ジャージー牛乳製品等の特色あるグルメを提供

◇広大な草原など阿蘇独自の雄大な景色を楽しめ  
写真映えするスポットも点在



## 主な産業 ②農業

◇豊富な水や冷涼な気候を活かし、水稻、野菜  
花き及びきのこと類の生産や畜産が営まれている

◇作付面積の9割以上は水稻だが、販売額の  
大半を占めているのは野菜

◇特に生産量が多いのは、夏大根(県内2位)、  
ハウレンソウ(同4位)、夏秋キュウリ(同5位)

◇畜産は、牧野(草原)を活用した放牧による  
繁殖牛生産がメイン



# 主な産業 ③林業

◇町の総面積の43%(約5000ha)が杉林で、  
ブランド杉「小国杉」を産出



◇小国杉は、目が詰まった比重の高い木材で  
丈夫なため、主に建材として活用されている



◇2017年にファブラボ阿蘇南小国を設立し、  
気軽に木工を楽しめる場の提供や杉の新たな  
活用法(家具、アロマ等)の開発を進めている

◇木質チップやペレット等のバイオマス燃料と  
しての利用拡大も図っている



# 町の取組み 全体像

将来像（2050年）の設定 ⇒ 共有ビジョンの策定

施策の計画・推進 ⇒  
総合計画（2029年まで）・総合戦略（2024年まで）  
の策定・推進

雇用を維持、増加、創出  
次世代人材の育成

新しい人・資金の流れづくり  
連携・協働の一層の促進

希望を叶えやすい環境づくり  
皆が活躍できる地域社会

安心して暮らし  
続けられる町づくり

現状の的確な把握 ⇒ 独自に産業連関表作成・買物と暮らしの調査等実施

# 町の取組み 南小国町共有ビジョンの策定

SDGsを踏まえ2050年における本町のありたい姿として町民と協働で策定

き

築いてきた美しい里山の  
景観、伝統文化、生業を  
次世代に引き継いでいく里

よ

寄り添い支え合い  
人と人のつながりを  
大切にし  
一人一人が誇りを持ち  
多様な生き方を尊重  
し合える里

ら

ライフラインを充実させ  
地域全体で協力し  
だれもが笑顔で安心して  
過ごせる里

の

のびのびと学べる  
環境の中で、すべての人が  
夢に向かって挑戦できる里

さ

再生可能エネルギーを  
地域資源から生み出し  
有効活用し  
未来につながる  
豊かな暮らしを  
実現する里

と

共に連携し  
世界とつながり  
世界に誇れる  
幸福な暮らしが  
できる里

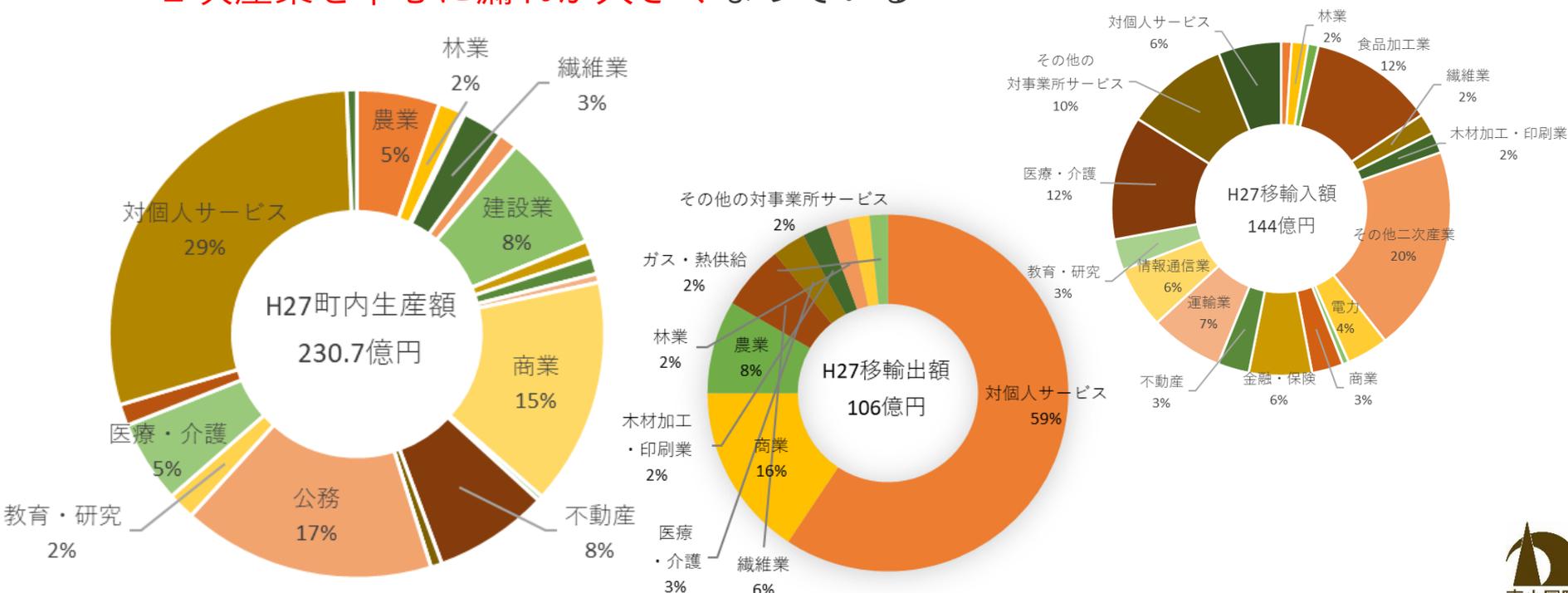
# 町の取組み 現状把握（産業連関表）

町内事業所における経済活動によるお金の流れを可視化する目的で作成 (H30)

◇町内生産額は230.7億円で対個人サービスや商業等の観光関連産業の占める割合が大きい

◇移輸出(外貨獲得)は106億円、移輸入(漏れ)は144億円で、地域全体収支は38億円の赤字

2次産業を中心に漏れが大きくなっている



# 町の取組み 現状把握（買物と暮らしの調査）

町内の各家庭における経済・社会・環境に関する活動状況を調査(R1)

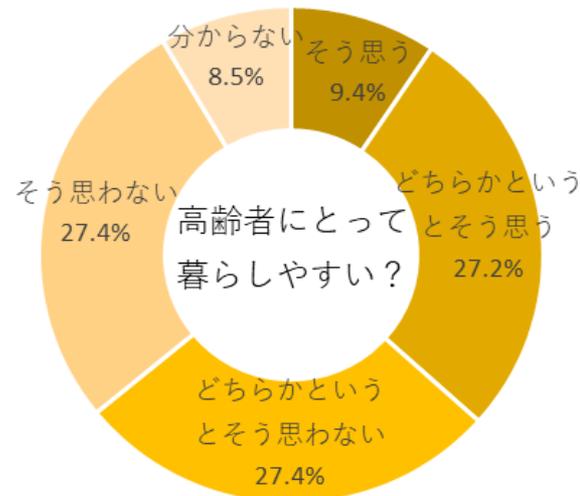
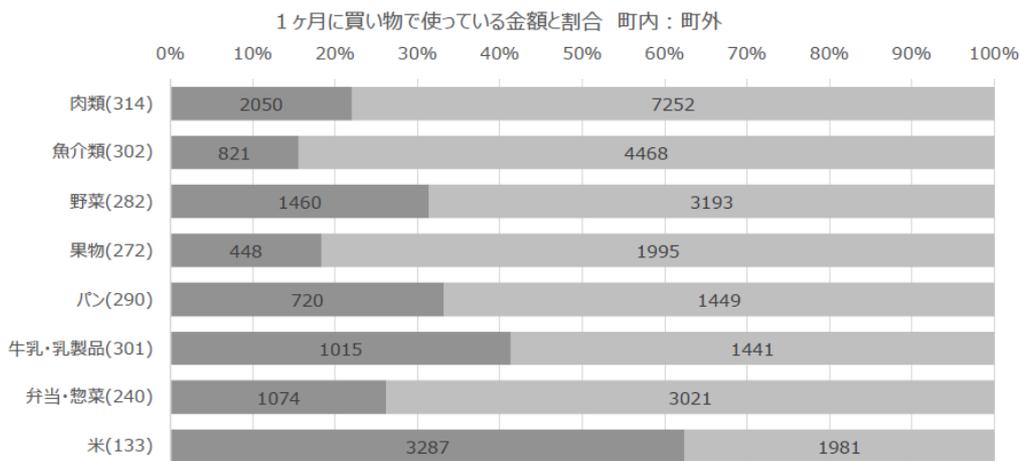
◇自家栽培で消費量の半分以上賄っている世帯の割合 米：4割 野菜：3割

ほとんどの食品の購入は町外で行われている(町外購入率：5割超)

◇自然や景観等の環境に関して満足度は高い(8割超)

プラスチックごみ排出抑制への取組みが5割に満たない等、環境への配慮が不十分な部分も見られた

◇本町は住みやすいとの回答が多い(7割)一方、高齢者や障がい者にとって暮らしやすいとの回答が5割超



## 町の取組み 現状把握（独自の観光客調査(R1)等から）

- ◇本町における観光の総合満足度は約99%、リピーター率は54%に上る
- ◇観光宿泊客は、宿泊翌日のランチタイムの早いうちに出発しており、体験活動への支出が隣接地域（大分県）と比較して少ない等、**機会損失が生じている**と考えられる

	平均到着時間	平均出発時間		本町	熊本県	大分県
宿泊	15：19	12：42	体験等への支出 (日帰り客)	1,025円	730円	1,970円
日帰り	12：29	15：05				

- ◇町内の旅館等で提供される料理食材の大部分が町外から調達されている  
その要因は、町内で生産されている食材の品目、時期、量が**知られていない**ことや生産者と旅館等の**ネットワークが構築できていない**こと
- ◇学校給食では、月に1回、地元食材を使ったメニューを提供しており、調整次第では、**町内の生産者と消費者のマッチングの可能性はある**

地元食材を使った学校給食 →  
(アスパラドッグ)



# 町の取組み (株)SMO南小国による地域経済活性化①

*Marketing  
Satoyama Management Organization*

◇(株)SMO南小国とは

- ・ 町、農協、商工会等の出資でH30に設立された株式会社(3セク)
- ・ 本町の魅力である「**上質な里山**」を次世代に引き継いでいくために地域資源を活用して事業を展開し、そこから得られた財やネットワークを地域活性化のために活用していく **地域商社(DMO) 兼 まちづくり公社**
- ・ 物産、観光、ふるさと納税、情報発信、起業等支援の5事業部を展開



SMOの所在する物産館きよらカアサ



ガイドツアーの様子

## 町の取組み (株)SMO南小国による地域経済活性化②

◇本町ではSMOと連携し、地域課題の解決や地域経済の活性化につながる次の取組みを推進

- ・ 観光・物産コンテンツの充実(特産品開発、着地型ツアーの造成等)
- ・ 観光・物産関係のPR強化(ふるさと納税受入拡大も含む)
- ・ 外国人観光客受入環境の整備(多言語対応等)
- ・ 地産地消や新ビジネス創出につながるマッチング・連携の促進
- ・ 町内における起業や事業承継の総合的な支援

R1年度：約7.5億円(前年の4倍以上)  
R2年度：約9.9億円



地元産品が並ぶ きよらカァサ店内



コワーキングスペースMOG(SMO運営)

## 町の取組み 起業、移住等の促進

◇町内における新たな挑戦を育てるとともに、本町への新しい人の流れをつくるため次の取組みを推進

- ・ **未来づくり事業**：起業等希望者の掘り起こし、関係者とのマッチング、起業支援プログラム(起業塾、戦略会議)の実行等の多面的な支援
- ・ **夢チャレンジ推進事業**：起業関係資金の町独自補助
- ・ 空き家バンクの充実や民間賃貸住宅の建築促進
- ・ 外国人材の受入環境の整備



未来づくり起業塾の様子



夢チャレを活用して開設されたカフェ

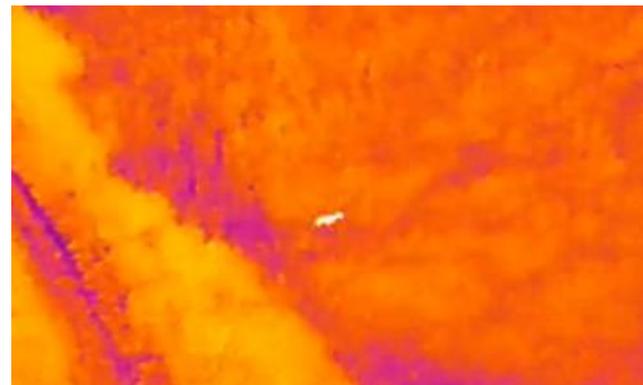
## 町の取組み 先進技術の導入（ドローン利活用）

◇熊本地震発生後、町でドローンを購入し、次のような活用策を見据えて取組みを推進中（現在は、高性能ドローン1台を含む6台を所有）

- ・ 災害時の被害状況の把握や行方不明者の捜索
- ・ 操作可能な人員の確保・拡大（関係団体や学校と連携した講習等）
- ・ 観光関連情報等のPRのための写真や動画等コンテンツの制作
- ・ 観光客誘致（ドローン貸出しやドローン手形等）
- ・ 有害鳥獣の駆除（赤外線カメラを活用した鳥獣の発見）



ドローン講習会の様子



赤外線ドローンによる有害鳥獣の把握